

道徳の教科化の趣旨を生かした 導入・展開・終末・

発展の類に関する研究①



新宮 弘識

はじめに

道徳の授業に関する実践的研究は、道徳が教育課程に位置付けられた昭和33年から今日まで、57年間積み重ねられてきたのであるが、どのような成果を挙げることができたのであろうか。

論語に「温故知新」という句があるが、過去の研究実績を明らかにすれば、新しい道徳の授業のあり方がみえてくるはずである。

道徳の副読本『ゆたかな心—新しい道徳』（光文書院）の「教師用指導書」に示されている展開例を、「どのような導入が行われているか」「どのような展開が行われているか」「どのような終末が行われているか」「どのような発展的活動が想定されているか」という観点から分析して、その

類を明らかにしてみよう。

そうすれば、その成果や問題点が明らかになり、教科化される道徳の授業の改善に寄与できるはずである。

この研究は、1年32事例2年34事例、低学年の合計66事例、3年35事例4年35事例、中学年の合計70事例、5年35事例6年35事例、高学年の合計70事例を分析して、その類を明らかにし、考察したものである。

具体的な事例は、分かりやすくするために修正加筆したものがある。また、具体的事例は、上段から低・中・高の順で記述しているが、具体例のない学年もある。

I. 導入について

(1) 導入の類と具体的な事例

導入の類	具体的な事例
a 経験を想起させたり、道徳的内容に関するキーワードを話し合わせたりして、興味・関心をもたせる導入	<ul style="list-style-type: none"> ・わがままをいったことはありませんか。 ・挨拶にはどのような挨拶がありますか。 ・きまりについて、あなたはどのように思いますか。 ・礼儀正しくできなくて恥ずかしいと思ったことはありませんか。 ・みなさんはどのような生活目標を立てていますか。 ・忠告とは、どんなことだと思いますか。 ・友達と意見が食い違ったことはありませんか。
b 経験を想起させたり、道徳的内容に関するキーワードを話し合わせたりして、問題意識をもたせて教材につないでいく導入	<ul style="list-style-type: none"> ・弱虫といわれたことはありませんか。つぎの話にでてくる人は弱虫かどうかについて考えましょう。 ・だれかにお世話になったことはありませんか。つぎの話にでてくる人は、どんな気持ちでお世話をしているかについて考えましょう。

	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと友達がほしいとは思いませんか。友達をつくるには、何が大切かについて、つぎの話を読んで考えましょう。 ・自分が立てた目標を実現する秘訣は、何だと思いますか。もっとよい秘訣があるかについて、つぎの話を読んで考えましょう。 ・勇気とはどんなことだと思いますか。つぎの話を読んでくわしく考えましょう。 ・友情とはどんな心でどうすることだと思いますか。自分の考えと比べながらつぎの話を読みましょう。
c 経験想起をカットし、教師が直接問いを示して、教材の読みに入る導入	<ul style="list-style-type: none"> ・つぎの話を読んで、友達をたくさんつくる秘訣について考えましょう。 ・つぎの話は、魚の命が危ない話です。だれかがどんなことを考えて助けるかな。考えながら読みましょう。 ・学びと遊びとの違いについて、つぎの話を読んで考えましょう。 ・挨拶は何のためにするかについて、つぎの話を読んで考えましょう。 ・つぎの話を電話のかけ方は、みなさんと違うところがあります。何が違うかを考えて読みましょう。 ・誠実について、つぎの話を読んで考えましょう。
d 経験想起をカットし、最初に教材を読ませて、話し合いたい問題を意識させる導入	<ul style="list-style-type: none"> ・つぎの話を読んで、話し合いたい問題をつくりましょう。 ・つぎの話を読んで、どのようなことをみんなで考えたいかを見つけましょう。
e 教材に出てくる代表的な人物や事物を示して興味・関心をもたせる導入	<ul style="list-style-type: none"> ・みなさんは、きつねを知っていますね。つぎの話はきつねがでてくる話です。 ・これは救急車の写真です。つぎの話は、救急車の話です。読んでみましょう。
f その他	

(2) 導入に関する考察

1. 経験の想起による導入について

- ① 調査結果の「a 経験を想起させたり、道徳的内容に関するキーワードを話し合わせたりして、興味・関心をもたせる導入」がこれに相当する。この類の導入は、低学年・中学年・高学年ともに活用度は高い。
- ② ところでこの導入は、導入に時間を費やしたくないから簡単にすませようとして、子どもが、「このことをぜひ考えたい」とする学習意欲を高めることができず、想起された経験がつぎの展開前段にどのようなようになっていくかが明確ではないものが多いように思われる。中には、形式的な経験想起に止まるものも多い。
- ③ 学習活動を子どもの側から考えた場合、ある活動が終わればその活動が、必然的につぎの活動を生んでいくというように、活動に連続性がなければならない。学習には子どもの側からみた学習のストーリーがなければならないのである。
- ④ この点からこの導入を考えた場合、教科化の改正趣旨の一つである、「子どもが主体的な学習をはじめの出発点」ともいえるべき導入になり得るかという疑問が生まれる。

2. 問題を意識させる導入について—その1

- ① 主体的かつ積極的な学習を期するには、子どもが問題意識をもって学習に参加することが大切である。子どもに問題意識を抱かせる第一の方法として、調査結果の「b 経験を想起させたり、道徳的内容に関するキーワードを話し合わせたりして、問題意識をもたせて教材につないでいく導入」が考えられる。
- ② 調査結果によれば、この導入の活用度は、「a 経験を想起させたり、道徳的内容に関するキーワードを話し合わせたりして、興味・関心をもたせる導入」と比べると低い。もっと重視すべきであろう。
- ③ ただし、この活動は、経験の想起から問題の意識化まで、相当の時間を要するという問題点があると同時に、教師の相当の指導力が問われる。

3. 問題を意識させる導入について—その2

- ① 問題を意識させる導入の第二の方法として調査結果の「c 経験想起をカットし、教師が直接問いを示して、教材の読みに入る導入」が考えられる。
- ② この導入は、的確な問題を示すことができるだけでなく、短時間にすませることができるという特長がある。しかし、教師が問いを示すわけであるから、慣れるまでははじめの段階における子どもは、このような導入に対し受け身であるという問題点もある。
- ③ このことは、与えられた「問い」を話し合っていくうちに、しだいに子どもの自身の「問い」になっていく。それを考えれば、大きな問題ではなからう。
- ④ この方法は、中学年・高学年はもとより、低学年において、おおいに活用できるように思われる。

4. 問題を意識させる導入について—その3

- ① 問題を意識させる導入の第三の方法として調査結果の「d 経験想起をカットし、最初に教材を読ませて、話し合いたい問題を意識させる導入」が考えられる。
- ② この導入は、低学年には不向きであるが、中学年以上は効果的であろう。最初は、うまくいかないだろうが、回を重ねるごとに適切な問題を導出できるようになる。
- ③ ここで大切なことは、子どもが考えたいと思う問題が、必ずしも道徳的な問題ではないことである。ここに、教師の指導力が問われるが、事前に子どもが導出しそうな問題を予測して、道徳的観点から検討しておくことが大切である。

5. 人物や事物を示して興味・関心をもたせる導入について

- ① 調査結果の「e 教材にでてくる代表的な人物や事物を示して興味・関心をもたせる導入」がこれに相当する。
- ② この導入の活用度は、低学年・中学年・高学年ともに10%程度であるが、提示された人物や事物に対する興味・関心だけで、道徳的内容に関する意識がどれほど喚起されるかという問題がある。